

とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

園名 江の島保育園
活動日 2025年9月4日 9月11日
9月18日 9月25日
クラス名(年齢) あんず組(0歳児)
年間テーマ 感覚(音)

活動のテーマ：第2回目「音②」

〈テーマの設定理由〉

- 普段から雨の音や遊具の音などに反応し興味を持つ姿が見られているため。遊びの中で音がする遊具を出すことで子どもの「音」に関する興味関心を深めていきたい。

1.活動スケジュール

- 普段の室内あそびの中で遊具を自然に設定し、子どもから始まる遊びを見守る。
- 時には大人が意図的に設定したり、声掛けをしながら子どもの反応をよく観察し共感していく。
- 9/4 9/11 9/18 9/25 計4回活動を実施する。
- 遊びの中で子どもが音を感じて遊び、探求している姿を写真におさめる。
- 月に2回クラス会議内で子どもの遊びの様子や反応、気づきを共有し、より効果的な声掛けや環境設定を目指す。
- 活動内容の成果と評価を写真と共に記録に残す。

2.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ラトル
ドラム玉落とし
ペットボトル
ミルク缶
バケツ

3.探求活動の実践

<活動の内容>

- 振る、たたく、入れるなどすることで音がすることに気が付く。
- 大人が傾ける、転がすなどして働きかけると、子どもが大人の模倣をする。
- 他児や大人がするのを見て、音の違いに興味を示す。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- 顔の近くでラトルやカプセルジャラ・丸スズ等を振ると、身体を動かしたり音に気が付いてじっと見る。視線を合わせて共感し、「カラカラ音がしたね」「きれいな音だね」などと声を掛けた。また、転がる丸スズに手を伸ばし、触ってみようとする姿が見られた。



- ドラム玉落としは、上から落ちてくる玉を見る、ボールが落ちていることで音が鳴っていることに気が付く。どうやったら音が鳴るかじっと観察する。大人がひっくり返したり、転がしてみると模倣して転がす、斜めにしてみる、ひっくり返すなどして試す。



- ミルク缶にカプセルジャラを入れる、ミルク缶からチェーンを引き出す、ミルク缶やバケツの底をたたく等あそんでいる中で音が出たことに気が付いて大人の顔を見る。大人が「音が鳴ったね」と共感するとくり返し行う。ミルク缶、バケツ、タッパーなどをたたくと音が違うことに気が付き、比べるようにたたく。



4.振り返り

<振り返りによって得た気づき>

- 子どもが棚から自分で取ったり、大人が設定しておくことで興味を示し、感覚・操作練習あそびの中で、音の発見があった。
- 「出したり入れたり」のあそびの中で、「カラン」「ポトン」「シャラシャラ」などと音がすると、声や表情で表し、大人がそれに共感することで繰り返し遊んでいた。
- いろいろな素材の遊具（チェーン、棒ビーズ、カプセルジャラ、チェーンリング、タッパー、ミルク缶、空ペットボトルなど）を用意しておくことで、好きな音を見つける姿もあった。
- 月齢の小さい子には大人が働きかけることできっかけを作ったが、月齢の大きい子たちは自分で試す、大人や友だちがしているのを見て模倣して遊んでいた。
- 視界の外で音が鳴っていることに気づき、身体の向きを変えてみたり、腹ばいや四つばいで追いかけてみたり、音への興味でそれぞれの運動発達への働きかけにもつなげられた。